

令和元年度 石見銀山基金事業

石見銀山学習概要報告集

班別

- 【1班】 第一中学校・大田小学校・長久小学校・川合小学校・久屋小学校
- 【2班】 第二中学校・五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校・久手小学校・朝波小学校
- 【3班】 第三中学校・大森小学校・高山小学校
- 【4班】 北三瓶中学校・志学中学校・志学小学校・北三瓶小学校・池田小学校
- 【5班】 大田西中学校・仁摩小学校・温泉津小学校

大 田 市 校 長 会
石 見 銀 山 課
NPO石見銀山協働会議

1 班

校校校校校
学学学学学
中小小小小
一田久合屋
第大長川久

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3年生・149名

2. 実施時期 令和元年6月～10月

3. 学習のねらい

- ①石見銀山について、世界遺産としての価値や魅力をより深く知る。
- ②石見銀山についての課題を見つけ、自分の意見や提案を発表できるようにする。
- ③石見銀山学習を通して、自分の生き方を見つめ、ふるさとへの誇りと愛着を育てる。

4. 学習内容

〈事前学習〉

- ①石見銀山資料館館長、仲野義文さんの講話（石見銀山と海外とのつながり、銀の行方や交易による品々等の話）を聞く。
- ②「石見銀山ことはじめ」等の資料を使い、石見銀山の歴史や銀山学習の目的について学習する。
- ③現地学習で回るコースについての調べ学習をする。

〈現地学習〉

- 銀山地区コース、町並み保存コース、武家・商家コース、寺社コース、龍源寺間歩コースの5つのグループに分かれ、大森の町を歩いて事前学習を生かして新たな情報収集を行う。

〈事後学習〉

- ①現地学習で得られた新たな情報をもとに、グループで新聞を作成する。
- ②文化祭で展示し、多くの人に新聞を見てもらう。



仲野館長の講話



銀山地区コース



龍源寺間歩コース



5. 生徒の感想

- ・ 険しい山道を登りながらの見学はとても大変でした。しかし、この道を昔の人は何度も歩いて銀を運んでいたのだと思うと歴史と人々の苦労を不思議と感じることができました。石見銀山を実際に見学することで新しい発見をすることがありました。良い経験になりました。
- ・ 僕たちは今回の学習をとおして、石見銀山の問題や大森の町並みを知った。今回の学習で僕たちが一番の課題だと思ったのはやはり観光客の少なさだと思う。石見銀山は地上ではなく地下にあるのでわかりにくく観光客がとおのいていることがわかった。今回で僕たちは石見銀山のすばらしさを知ったのでそのすばらしさを大人になっても忘れずに日本中に広めていきたい。また大森のすばらしい町並みも伝えていきたい。
- ・ 石見銀山学習をして、銀山の問題やその問題の解決策などを考えて、学ぶことができました。石見銀山学習で学んだことを生かしていきたいです。
- ・ 石見銀山の歴史について学ぶことができてよかったです。龍源寺間歩の見学をして、銀をとっていたときの苦勞を知ることができてよかったです。
- ・ 実際に石見銀山に行ってみて、分かったことがたくさんありました。なぜ、清水谷製錬所ができたのか、大森の歴史を知ることができました。石見銀山を守るために、ボランティアなど私たちにできることをしていきたいです。
- ・ この石見銀山学習をとおして大森の歴史や課題なども見つかりました。解決策も考えられたので良い学習になりました。大森の町並みや歴史を守るために、自分にできることを考えてこの学習を生かせるように生活していきたいです。この学習で大森や石見銀山について興味がわきました。個人でも大森の歴史について調べたいです。
- ・ 今回の石見銀山学習をとおして大森の魅力や石見銀山の大切さがより分かった。また、石見銀山とは、どういうものなのか、どんな魅力があるのかなどたくさん知ることができたのでよかった。今回のことをとおして他のことにも生かせたら良いなと思った。

6. 成果と課題

- 仲野さんの講演や現地でのフィールドワークをとおして、石見銀山の世界遺産としての価値や魅力を深く知ることができた。
- 生徒にとっては改めてふるさとを見つめ直す良い機会になり、ふるさとを誇りに思う気持ちと愛着心を高めることができた。
- ガイドの方とのふれあいを通して、人と人との関わり方を学び、世界遺産を保全している人々や町並みの景観に努める町民の気持ちを思いながら学習することができた。
- △ 石見銀山について課題の設定をすることができたが、その改善に向けての提言をしっかりと練り上げる時間の確保が難しかった。
- △ 実施時期や他の校内行事との兼ね合いから授業時間の確保がきびしく、事後学習が一部2学期にずれこんでしまった。

世界遺産学習で学びのバリアフリー化をしよう

～「学び」を通じた共生社会の実現をめざして～

1 実施学年、人数 第6学年 79名

2 実施時期 令和元年7月～11月

3 学習のねらい

- ・「平和の教材」である世界遺産を、性別、年齢、障がいの有無、国籍、人種、民族などにかかわらず、誰もが等しくその「学び」を享受できるためのバリアフリー化をめざす取組を行うことを通して、共生社会の実現をめざす。

4 学習内容

	主 な 学 習 活 動
事前学習	○世界遺産の概要（世界遺産とは、種類、平和の礎）について学び、石見銀山遺跡とその文化的景観の現在について知る。（石見銀山資料館 仲野義文館長講話） ・学芸員から世界遺産についての話を聞き、石見銀山遺跡の観光者数が減少している事実を知り、今後の課題について学ぶ。 ○石見銀山遺跡について学ぶ ・「石見銀山ことはじめ」を中心に複数の資料を読み、個人で石見銀山遺跡について学んだことをまとめる。（複数課題設定） ○ろう講師の話を聞き、学年共通の課題（観光地の動画作成をして誰もが分かり訪れる観光地にしよう）を設定する。 ・ろう講師の金井さんと通訳者の竹下さん（大田市地域福祉課）を講師に招き、聞けないとはどういうことなのか、ろう講師にとって観光施設はどうあればよいのかという視点から話を聞く。 ○動画作成の準備を行う ・1分間テキストの作成 ・ナレーション練習 ・手話練習 ・絵コンテ作成 ・大田高校生との打ち合わせ（テキスト、絵コンテについての相談） ○ろう講師と通訳者から動画作成の際に挿入する手話を学ぶ ・動画内に挿入するキーワードとなる手話を学ぶ。

現地学習	○第1回目 大森町の町並みと銀山町の見学（石見銀山資料館 仲野義文館長との学習） <u>石見銀山資料館、旧河島家、龍源寺間歩、高橋家等、計16か所</u> ・石見銀山遺跡の各所見学を通して、動画解説に必要な内容を集め、テキスト修正を行う。 ○第2回目 大森町の町並みと銀山町の撮影（大田高校生との学習） <u>石見銀山資料館、旧河島家、龍源寺間歩、高橋家等、計16か所</u> ・石見銀山遺跡の各所を高校生とともに、動画作成のための撮影を行う。 - 仲野館長、大田市内ろう者とも学習。
事後学習	○世界遺産である石見銀山遺跡を紹介しよう ・動画編集作業を高校生とともに行う。 ・石見銀山遺跡紹介動画上映会を大田高校生と行い、互いの成果を伝え合う。（於：大田高校） ・学習発表会で、石見銀山遺跡の魅力を作成動画とともに発表。発表会后、保護者向けに16動画を公開する。 ・大田高校のアカウント名でYouTubeに16動画を一般公開する。

5 実際の学習の様子



事前学習 ろう講師の話を聞く



現地学習 第1回目



現地学習 第2回目



事後学習 動画編集作業



事後学習 動画上映会



事後学習 学習発表会にて発表

6 学習の成果と課題

- 石見銀山遺跡を守っていききたいと思う児童が増えた。
- 動画作成を通して、誰もが等しく学びを享受するためにはどうすればよいか考えることができた。自分以外の誰かの視点に立って考えることの良さを味わうことができた。
- 高校生との協同学習を通して、互いに考えを出し合いものを作る楽しさを学んだ。
- 本校の児童数では、現地学習に行く回数や時期が制限（移動手段の確保の困難）され、より柔軟に授業を展開することを難しくしていると感じる。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 6年生 36名

2. 実施時期 令和元年9月～11月

3. 学習のねらい

- 郷土の貴重な文化・歴史遺産、その背景となった歴史や地域・文化・技術について学習することを通して、世界遺産である石見銀山遺跡に誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- 石見銀山について学んだり、体験したりしたことをまとめ、発表することができる。

4. 学習の内容

主な学習内容
【事前学習】 ○石見銀山について知る。 ・DVDやパンフレット、資料などから、石見銀山の歴史や価値について知る。 ○石見銀山遺跡について調べてみたい課題を見つける。 【現地学習①】 ○石見銀山について調べる。 ・世界遺産センターで、展示物を見学したり説明を聞いたりして、課題を解決する。 ・ゆり盆体験、灰吹き実験、丁銀づくり体験を行う。 【現地学習②】 ・大久保間歩、釜屋間歩を見学する。 ・石見銀山資料館や大森の町並みを見学し、銀山資料館仲野さんより話を聞く。 【事後学習】 ○世界遺産・石見銀山遺跡についてまとめる。 ・これまでの学習の成果をまとめ、発表する。

5. 学習の様子

【石見銀山学習とは・・・】

9月18日（水） 講師：丸亀貴彦教諭

世界遺産とは何か。石見銀山の価値とは何か。銀山の歴史的変遷や人々の暮らしなど、分かりやすく説明をして頂き、今後の銀山学習についての関心・意欲を高めることができた。

【現地学習の流れ】

10月1日（火） 世界遺産センターの館内見学・体験活動及び五百羅漢見学

10月8日（火） 大久保間歩及び釜屋間歩見学・銀山資料館及び大森町並み見学



（児童の感想）

- ・大久保間歩を見学して、昔の人の知恵や技術の高さを知り、昔の人はすごかったんだということが分かりました。
- ・銀の採掘の中で、掘り出した鉱物のうち99パーセントがいらぬ物だったということをしり、当時の人々の大変さが分かりました。

【銀山学習をまとめよう、発信しよう】

12月19日 銀山プレゼンテーション



6. 成果と課題

- ・講師の丸亀教諭の授業を通して、銀山遺跡についての初めて知る内容や社会科の歴史学習との関わりを感じ、高い意欲をもって追求活動に臨むことができた。
- ・現地学習については、世界遺産センターで基礎的な知識を学んだり、体験活動をしたりしたのちに、間歩見学を行うことで、生で見る迫力を実感したり、ガイドの方の説明の理解が深まったりした様子であった。
- ・テーマ別に調べた内容をプレゼンテーションすることで、多面的・多角的に石見銀山の価値を再認識することができ、ふるさとの宝として大切にしていこうという気持ちと、郷土に対する愛着を深めることができた。

令和元年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立川合小学校

○ 実施学年・人数 第6学年 人数14人

○ 実施時期 令和元年10月16日

○ 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・見学調査活動を通して、石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる。

○ 学習内容

学習テーマ 知ろう！ 探ろう！ 石見銀山

- ① 3人の武将（信長・秀吉・家康）と石見銀山との関わりを学ぶ。
- ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。
- ③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する。
- ④ 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。
- ⑤ 現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。

1 学習発表会で学習したことをたくさんの人に伝える。

○ 実際の学習の様子

【事前学習】

- ① 3人の武将と石見銀山との関わりを学ぶ。
- ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。

- ・社会科の時間に3人の武将と銀山の関わりを学んだ後、NHKで放送された「そのとき歴史は動いた～銀を制するものは天下を制する～」を視聴した。その後、新聞記事やホームページ、世界遺産センターから出ているパンフレットを活用して石見銀山の概要を小項目に分けて学習し、まとめていった。

【現地学習】 ③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する。



・銀を採掘するために、いろいろな体勢で仕事をしてきたこと、間歩で働く人の平均寿命が30歳くらいであったこと、地下何階もあったことなどを学んだ。暗く、足下も頭の上も心許ない感触を抱きながら、採掘に携わった人々の労苦を児童なりに感じ取ることができた。また、釜屋間歩の岩盤遺跡は当時の人々の生活が分かるものであり、遺産センターでの模型とつなぎ合わせて理解することができた。

1 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。



館内見学では、自分たちが今まで学習してきたことを頭に置きながら説明を聞き、見学することができた。展示物で銀山全体の広さや、歴史的価値を再度確認することができた。

選鉱体験では、水と銀の混ざった土が入ったたらいの中に選鉱用の容器を入れて、用心深く銀を選ぶ姿、おおざっぱに流す姿などさまざまであったが、小さな銀を発見しては歓声をあげていた。土の中から銀を取り出す作業の大変さを実感することができた。

【事後学習】

1 現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。



・現地学習後、世界遺産センターから出されている DVD を視聴し、自分がこれまで学習してきたこと、現地見学で学んだことを再度整理して報告書作りに取りかかった。

・間歩の中や遺産センターの模型等、何枚か写真を用意しておき、写真を切り貼りしながら現地見学の報告書を作った。見学で分かったことだけでなく、事前学習の内容をきちんと盛り込んで報告書を作る

ことができた。

・事後学習で作った報告書と事前学習で作っていた銀山の概要を個々がまとめたプリントを一冊のパンフレットにした。

⑥ 学習発表会で学習したことをたくさんの人に伝える。



自分たちが学習したことを学習発表会で発表した。銀山の歴史的価値や銀の採掘方法等を劇やクイズなど工夫して表現した。たくさんの人に伝えることで、自分たちの学びを深めることにもなった。

○学習の成果と課題

【成果】

1 石見銀山のすばらしさを知り、大田市への愛着と誇りをもつことができた。

1 調査活動や体験活動を通して、歴史学習に興味をもち、学力の向上を図ることができた。

【課題】

・児童が興味、関心を持って学習に取り組み、石見銀山の歴史的価値に思いをはせ、ふるさと大田をさらに大切にしようとするような学習過程を考えていきたい。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第5・6学年15名（指導者2名）

2. 実施時期 令和元年 9月～12月

3. 学習のねらい

- ・ 石見銀山の歴史や現存している遺跡に興味をもち、意欲的に調べることができる。
- ・ 遺跡（間歩など）や世界遺産センターの見学等を通し、銀生産が盛んだった頃の石見銀山の生活の様子や石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めることができる。
- ・ 自分の課題解決に必要な資料や情報をさがし、分かりやすくまとめることができる。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	石見銀山について知ろう ・ 副読本・DVD・図書館の本・パンフレット等から、石見銀山遺跡の歴史や価値について知る。 ・ 資料館館長さんや学芸員藤原さんのお話を聞き、自分たちの住んでいる町と石見銀山繁栄との関わりがあったことや歴史上の人物にとっての重要拠点であったことを知る。 ・ 現地学習での課題を見つける。
現地学習	・ 大久保間歩・釜屋間歩の見学を行い、当時掘られていた様子を知る。 ・ 石見銀山世界遺産センターでゆり盆体験をしたり、灰吹きの見学をしたりして、銀の取り出し方を知る。さらに、見学や質疑を通して課題を解決する。 ・ 久利町大屋町の寺や神社、鉱山跡の見学を通して、石見銀山とのつながりの考察や比較をしながら課題を解決する。 ・ 大森の町並みを見学し、当時の様子を知ったり、町並みを保存しようと尽力しておられる方の存在を知ったりする。
事後	・ 学んだことをもとに台本を作り、学習発表会で地域に発信する。 ・ 資料および見学や体験学習で学んだこと、さらに自分自身で調べたことなどをまとめ、発表する。

5. 実際の学習の様子

①石見銀山資料館館長さんのお話を聞く。

現地学習の前に、資料館館長さんより、「世界遺産とはどういうものか」「石見銀山の歴史」「石見銀山と世界の国々」「石見銀山と久利町・大屋町」についてお話を聞き、基礎的な知識を得ることができ、課題をもった。

②大久保間歩・釜屋間歩・世界遺産センターの見学

現地で直接話を聞くことで、当時掘られていた様子や携わっていた人々の苦勞・工夫などを実感した。また、今まで資料を通して捉えていた石見銀山の価値を、詳しい説明を聞きながら展示物を見ることで、銀山全体の広さや歴史的価値を再確認し整理して理解することができた。



ガイドの方の説明を聞く



世界遺産センターの見学



ゆり盆体験

③久利町・大屋町の見学

久利町・大屋町の寺や神社と石見銀山のつながり、赤波石が城上神社の土台に使われたいたこと等について、学芸員の藤原さんに説明をしてもらった。歴史的な背景を知り、地元が石見銀山とのつながりがあることに気づき、地元に対する認識を新たにすることができた。



大屋町・順勝寺跡の見学



久利町・赤波石採掘場跡の見学



久利町・山辺八代姫命神社の見学

④大森の町並みの見学

ガイドの方に、説明をしてもらいながら大森の町並みを見学した。当時の町並みの様子がそのまま残っているのは、町並みを保存しようと尽力しておられる地域の方の存在があるということを知ることができた。



大森の町並みの見学



熊谷家の見学



城上神社の見学

⑤銀山学習のまとめと学習発表会

学習発表会で石見銀山学習の成果を発表するとともに、地域へ発信することができた。また、学級で、石見銀山学習の成果を新聞にまとめ、お互いに発表し合い、学習を深めた。



石見銀山と武将



石見銀山と久利町・大屋町との
つながり



石見銀山の成果を新聞
にまとめた

6. 学習の成果と課題

- ・ 複数回の現地学習を行ったことで、より興味関心を高めることができた。
- ・ 石見銀山と久利町・大屋町との関わりを調べることで、支え合って生活していたことを知り、郷土に対する愛着を深めることができた。
- ・ 学習発表会で地域に発信したことで、地域の方に改めて石見銀山と久利町・大屋町との関わりを知ってもらえることができた。
- ・ 石見銀山学習を通して、総合的な学習の時間における探求的な学習を展開することができた。

2 班

第五	二十	中	学	校
静	間	猛	小	校
鳥	井	小	学	校
久	手	小	学	校
朝	波	小	学	校

1. 実施学年・人数 1年生 72名

2. 実施期間 9月～11月

3. 学習のねらい

- 石見銀山の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育てる。
- 地域の人々との交流を深めながら、世界遺産に登録されてからの変化について調べ、これからの石見銀山のあり方について考えようとする態度を育てる。
- 世界遺産である石見銀山の魅力を再発見し、伝えようとする態度を育てる。

4. 学習内容

1年生の総合的な学習の時間で実施した。

学習課題を「石見銀山の魅力が伝わる観光プランを提案しよう!」とし、探究的な学習となるよう計画した。

【事前学習】

- ・大田市役所石見銀山課・観光振興課に観光プランを立てるために必要なことを講演してもらい、ガイドの会の方から、生徒がそれぞれ考えた観光プランだと時間通りに回れるかなどアドバイスをいただいた。
- ・グループに分かれてそれぞれテーマを設定し、観光プランを立案した。その際、調べ学習やガイドの会の方々のアドバイスをいただきながら石見銀山への理解を深めることができた。

【現地学習】

- ・事前学習でテーマと観光をしてもらう対象者を設定し、それに基づく観光プランにそって班ごとに現地研修を行った。

<銀の採掘・精錬方法>

龍源寺間歩などの坑道や、吹屋跡などを見学し、銀の採掘・精錬の様子と鉱山で働く人々の生活を学ぶことができた。

<銀山の歴史>

石見銀山資料館を中心に戦国から江戸時代にかけての銀山争奪の様子や銀山支配の歴史を学ぶことができた。

<家族>

家族が楽しめる観光場所を調査するため、大森の街並みや龍源寺間歩を歩き、グループで意見を交わしながら、自分たちが考えた観光プランをより良いものにすることができた。

<健康>

石見銀山を端から端までウォーキングし、観光に健康を取り入れプランを突き詰めた。大森町内の飲食店や土産物屋など、観光地・石見銀山で事業をしておられる方の思いや事業所の魅力を探ることができた。

<体験>

龍源寺間歩がどのような坑道になっているかガイドの会の方と実際に歩きながら調べたり、城上神社の蛇のようなしめ縄を見たり、体験しながらプランを深め、学習することができた。

<若者>

定休日で訪れることができなかった店もあったが、若い人が石見の歴史に触れたり、思い出に残るような写真を撮影できるスポットを探り、石見銀山のよさを考えることができた。

＜お年寄り＞

観光客がお年寄りの設定で観光プランを考えた。五百羅漢などでは石見銀山ガイドの会の方の説明を聞いてお年寄りの立場を意識して学習することができた。

【事後学習】

- ・現地研修で感じたことや新たに知ったことをふまえて、観光プランを再検討した。また、現地で体験したことをパワーポイントにまとめ、発表会でプレゼンテーションをした。

5. 学習の様子



家の様子を見学



鎧を体験



ガイドの会の案内(龍源寺間歩)



熊谷家



街並み



ガイドの会による説明(五百羅漢)



プレゼン作成



観光プランを発表



発表をさく様子

6. 学習の成果と課題 (○成果 △課題)

○学習課題を「石見銀山の魅力が伝わる観光プランの提案」としたことで、単なる石見銀山の歴史の学習でなく、選んだテーマの視点で石見銀山の魅力について主体的に調査し、考える機会となった。

○資料からの情報だけで知識を深めるのではなく、現地に行って実際に見聞し、体験することによって、石見銀山の世界遺産としての価値や魅力を理解することができた。

○地域の人々との交流の機会もふまえながら、これからの石見銀山のあり方について考えたり、石見銀山の魅力を発信したりすることをおして、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育めた。

△事前、事後学習をより計画的に行ったり、もっと意欲が高まるような課題提示をすることで、学習意欲をより高めたり、学びの質を高めたりすることができたように思う。

△パワーポイントを使ったプレゼンテーションで発表したけど、パワーポイントの作成に時間がかかり、発表のスキルを指導しきれなかった。人に伝わる発表方法を身に付け、学年発表会の質を高めていくことが「発信力」の育成の点からも必要であった。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数 第5.6学年 13名

○実施時期 令和元年7月～11月

○学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学をしたり、石見銀山遺跡の資料を用いる学習をしたりして石見銀山遺跡の歴史やその価値を理解し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり体験を通して学んだりしたことをまとめ、地域へ発信する。

○学習内容

過程	主な学習活動
事前	○「発見・発信 石見銀山の魅力」 ・3人の武将と石見銀山の関係について知る。 ・教師から石見銀山について話を聞いたり、パンフレットやDVDを見たりして、石見銀山の歴史や石見銀山の価値について知る。 ・石見銀山学習の課題（調べたいこと、より詳しく知りたいこと）を見つける。
現地学習	11月7日 「石見銀山世界遺産センターで調べよう」 ・石見銀山世界遺産センターを見学したり、石見銀山ガイドの方の話を聞いたりして課題を解決する。 ・揺り盆を見学・体験し、当時の銀の取り出し方法について理解する。 「間歩を体験しよう」 ・大森の街を歩き、龍源寺間歩の見学、銀山柵内の場所の確認などより広い視野で石見銀山遺跡を理解する。
事後	・調べたり見学したりして分かったこと、関心をもったことなどを新聞にまとめる。 ・個人の課題は、それぞれが新聞にまとめ、発表する。

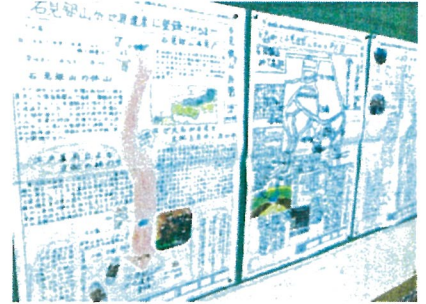
○実際の学習の様子

【世界遺産センターの見学】

世界遺産センターでは、職員の方から石見銀山の価値や特徴を教わり、世界遺産としての価値を再認識できた。また、石見銀山と世界とのつながりについても理解できた。事前に自分が調べたいことを考えて見学したことで、展示物や説明に興味をもって見学ができた。

【ゆり盆体験】

事前学習から銀の採掘に興味をもつ児童が多かったため、体験を通して理解を深めることができた。また、全ての作業が手作業で行っていたことを再確認し、当時の作業の大変さを感じることができた。



龍源寺間歩、清水谷精錬所、大森の町並みなどを見学した。実際にガイドの方に解説をしてもらいながら見学をしたことで、事後のまとめの学習では、より興味・関心をもって課題を追究する姿が見られた。

○児童の感想

- ・石見銀山への見学や調べてみてわかったことは、石見銀山が世界遺産に登録された理由です。世界遺産に選ばれるのはとても難しいということもわかりました。自分の住んでいる市に世界遺産があることがうれしいです。
- ・初めて石見銀山に見学に行き、歴史を感じたり銀の採掘の道具などを見たりできてよかったです。銀を掘る工夫の中で、空気を循環することが分かり、昔の人の大変さがわかりました。間歩には小さい穴がたくさんあったけど、すべて手作業で削っていてすごいと思いました。
- ・普段行くことができない場所にもガイドさんの案内で行くことができとても貴重な体験をすることができました。鉱山の採掘方法だけでなく、ゆり盆体験などをすることができ、銀の性質を利用している工夫などがわかりました。
- ・ゆり盆体験を初めてしました。ゆり盆は想像以上に重たかったので、とても大変でした。でも、自分で見つけた銀を持って帰ることができたのがうれしかったです。
- ・石見銀山には私が思っていた以上に銀の争奪戦がいっぱいあったので、すごく勉強になりました。昔から石見銀山は銀の国と呼ばれていて、有名だったんだとわかりました。これからもどんどん石見銀山のことを学んでいきたいです。

○学習の成果と課題（成果◎ 課題▲）

◎石見銀山世界遺産センターや現地での見学により、石見銀山の歴史・価値についての理解や関心をより深めることができた。

◎世界遺産の石見銀山遺跡を知ることを通し、大田市への誇りと愛着を深めることができた。

◎副読本やDVDを活用することで、より詳しく調べることができた。

▲指導者が石見銀山遺跡に関する知識を増やすために研修会に参加して、より分かりやすく教えられるように教材化することが必要である。

▲自分の住んでいる地域と石見銀山の関連について地域講師を招いて事前学習を行ったり、情報収集をしたりすることが必要である。

令和元年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年 10名
2. 実施時期 令和元年10月～12月
3. 学習のねらい
 - ・遺跡（間歩など）や資料館の見学等を通し、石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深める。
 - ・石見銀山遺跡について調べたり、見学・体験したりしたことをまとめ、発表する。
4. 学習内容
 - ①事前学習
 - ・パンフレット、本やDVDなどの資料を使って、石見銀山遺跡について調べる。
 - ・石見銀山学習の課題を見つける。
 - ②現地学習（11月25日）
 - 「石見銀山世界遺産センターで調べよう」
 - ・石見銀山世界遺産センターの見学をしたり、説明を受けたりして理解を深め、課題を解決する。
 - 「選鉱や精錬について体験し、学ぼう」
 - ・ゆり盆体験を行い、当時の鉱山技術や工夫を学ぶ。
 - ・灰吹法を見学し、当時の銀の精錬方法について理解する。
 - 「大久保間歩を見学しよう」
 - ・大久保間歩を見学し、ガイドの方の説明を聞いて、江戸時代と明治期の採掘方法の違いや変化、当時の銀の採掘の大変さなどを学習する。
 - ③事後学習
 - ・調べたり見学したりして分かったことを新聞にまとめ、発表する。

5. 実際の学習の様子

【世界遺産センター】



【ゆり盆体験】





【岩盤遺構の見学】



【大久保間歩見学】



6. 児童の感想

・私が銀山学習をして、一番おどろいたことは1527年から1923年ごろまで銀が採れていたことです。そして40トンもの銀が採れていたことにもおどろきました。大久保間歩には、現在でも当時使われていた足かけなどが残っていて、大切に守られてきたんだなと思いました。ゆり盆体験では銀が砂よりも重いことを利用して採っていて、すごい工夫だと思いました。私は石見銀山に初めて行ったので、知る内容もとても多かったです。守っていかなければいけない世界遺産だということが分かりました。

・私は石見銀山に行って、知らない事をたくさん知りました。戦国時代30年も銀を争い続けたことを知り、石見銀山は争うほどすごいところなんだなと思いました。昔の銀山について知るともっと調べたくなりました。間歩に入ったときは冷たい空気で、真っ暗だったので昔の人は、冬はとても寒いし、らとうの少しの明かりで、仕事をしていたと考えたら大変だなと思いました。そして間歩の長さは、「見当がつかない」と言っておられたので、調べてみたいなと思いました。石見銀山に行って楽しく学習できました。とてもいい機会になりました。

7. 成果と課題

・石見銀山遺跡を訪れたことのない児童がほとんどだったので、DVDやパンフレットなどの資料を使った事前学習で関心をもたせた。実際に現地で体験や見学を行うことで課題を解決したり、学校での学びを深めたりすることができた。

・世界遺産の1つが大田市にあるということを認識し、ふるさと大田に誇りをもつ気持ちが高まった。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年, 人数

第5学年 7名 ・ 第6学年 4名 (指導者 3名)

2. 実施時期

令和元年7月～令和2年2月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	・パンフレットやDVDなどの資料から、石見銀山遺跡や銀山街道について調べる。 ・現地学習での課題を見つける。
現地学習	① 古代出雲歴史博物館の見学 (講師・矢野学芸員) ・銀山に関するものや、たたらに関するものなどの展示物を見学したり、講義を受けたりして、石見銀山や、鳥井町と石見銀山の関わりなどについて理解を深め、ふるさと鳥井・石見銀山について愛着の心情を持つようにする。 ② 温泉津、銀山街道の見学 (講師・温泉津小 多田先生) ・銀山街道や温泉津の町並み、沖泊などで説明を聞いたり、見学したりして、課題を解決する。
事後	① 銀山学習・特別授業 (講師・石見銀山資料館仲野館長) ・石見銀が世界へ広まった貿易や、石見銀山と鳥井町にあったたたらとの関連などについて、説明を聞いて理解を深める。 ・石見銀山と鳥井町の関係や、たたらとの関連などについて、自分の課題を解決できるように質問する。 ② 授業公開日・銀山学習発表会 ・調べたり見学したりしてわかったことをまとめる発表の準備をする。 ・保護者の方に、発表を聞いていただくことで、自己肯定感や愛着心など、銀山学習や地域へのプラスの心情を高める。 ③ 銀山学習発表会 (地域講師・橋田良文さん) ・友達や保護者の助言やさらに調べたことをもとに、より良い発表を目指して準備する。 ・橋田さんの講評をもとに、今後の学習の見通しを持ったり、これまで学習したことを整理したりする。

5. 実際の学習の様子



銀山街道見学



沖泊見学



矢野学芸員の講義



体験活動『丁銀づくり』



仲野館長さんの特別授業



授業公開日での銀山学習発表会



橋田さんに聞いていただく発表会

6. 学習の成果と課題

- ・石見銀山や銀山街道、鳥井と銀山をつなぐたたらなどについての興味関心を高めるとともに、石見銀山の歴史や価値について理解を深めることができた。
- ・体験活動や遺跡見学を通して、さらに理解を深めることができた。
- ・現地の見学や体験活動をした後に、講師の方からお話を聞くことで、より理解が深まった。
- ・講師の方や保護者の方へ、学んだことを発表することで、体験や知識が整理され、一人一人の学びがより深まった。
- ・世界遺産である石見銀山遺跡がある郷土、大田市への誇りと愛着の心情を培うことができた。
- ・鳥井町と石見銀山の関わりを学ぶことで、より石見銀山を身近に感じ、石見銀の流通など、さらに理解を深めることができた。
- ・石見銀山学習を通して、総合的な学習の時間における探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開していくことができた。

1. 学年・人数 第6学年 32名

2. 実施時期 10月から12月

3. 学習のねらい

○石見銀山についての新たな知識を習得することで、世界遺産に対する意識を高め、郷土への誇りと愛着をもつ。

○見学や体験活動を通して石見銀山に対する興味関心を深める。

○石見銀山学習の成果を発表することで、今後の保護・保存・活用への意欲を高める。

4. 学習の内容と様子

(1) 副読本「石見銀山ことはじめ」やDVD視聴を通じた学習

- i) 世界遺産について
- ii) 銀山をめぐる争いについて
- iii) 銀の掘り方について
- iv) 間歩について
- v) 銀（丁銀）ができるまでについて
- vi) 世界とのつながりについて

【児童の感想】

- ・石見銀山が世界遺産に選ばれた理由がよくわかった。実際に見てみたい。
- ・有名な戦国武将も手に入れたかったほどすごい場所だということがわかり、うれしくなった。

(2) 旧波根湖干拓による新田開発についての学習

- i) 川崎平右衛門の業績について
- ii) 新田開発について

(3) 現地での学習（10月31日）

i) 大久保間歩、釜屋間歩の見学



【児童の感想】

- ・掘った跡が残っていて、当時の人々の様子を想像できた。
- ・江戸時代と明治時代の掘り方の違いがよくわかった。
- ・展示を見て、灰吹法の手順がよくわかった。
- ・石見の銀が世界に影響を与えていることがわかりおどろいた。

ii) 世界遺産センターでの展示見学



iii) ゆり盆体験学習



iv) 五百羅漢見学

v) 街並み散策

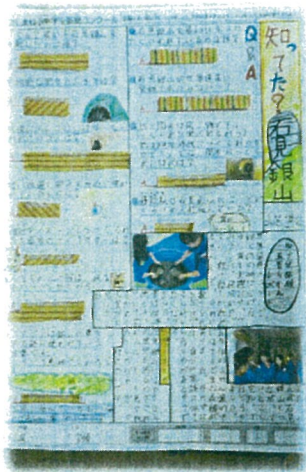


【児童の感想】

- ・わたしたちは、たった10分でも腰が痛くなったのに、昔の人はこの作業をずっとやっていたなんてすごいと思った。
- ・五百羅漢の中で家族に似た顔をさがしてみました。いろいろな表情があって何だかわいかったです。また家族と来たいです。

(4) 調べたことをまとめる学習

○成果物（新聞）



5. 成果と課題

- 石見銀山学習を通して、世界遺産に対する意識を高めるとともに、石見銀山遺跡の価値を再認識することができた。また、郷土への誇りと愛着をもつことにつながったことが、児童の感想から読み取れた。
- 間歩の見学や、ゆり盆体験活動を通して、石見銀山遺跡に対する興味関心を深めるとともに、資料等で学習したことの理解を深めることができた。
- 石見銀山学習で学んだことを新聞やポスター等にまとめることによって、自分がより深く追求したい事柄について、文献やインターネットで調べることができた。そしてそれらは、学びを確かなものにするために有効であった。
- 児童の課題解決型の学習としたかったが、資料を読み取ることが難しく、内容を理解していくことで精一杯となった。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 16名

○実施時期

令和元年9月～令和2年2月

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分で設定した課題について、体験活動や調べ学習を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過 程	主な学習活動
事前学習	○学習課題を見つけよう ・副読本やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、自分が調べたいテーマを考える。
現地学習	○世界遺産センターで調べよう ・ガイドの方の話を聞く。 ・センター内を見学し調べる。 ・調べても分からなかったことを質問する。 ・灰吹き法を見学する。 ・丁銀作りを体験する。 ○大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう ・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。 ・ガイドの方に質問する。 ○富山の要害山を見学しよう ・地域の方にガイドしていただき見学する。 ○波根の長福寺を見学しよう ・長福寺で毛利元就ゆかりの品を見せてもらう。
事後学習	○石見銀山について分かったことをまとめよう ・調べたことを新聞にまとめる。 ・新聞コンクールに応募する。

○実際の学習の様子

◆世界遺産センター見学



◆灰吹き法実演



◆丁銀作り体験



◆大久保間歩見学



◆富山要害山見学



◆波根長福寺見学



○学習の成果と課題

- ・ 石見銀山のことをほとんど知らない児童が、その歴史的価値を学ぶよい機会となり、児童にとって石見銀山が身近なものとなった。
- ・ 身近な地域にある石見銀山に関連した遺品や遺跡の価値を知ること、ふるさとに対する誇りや郷土愛が育まれた。
- ・ 石見銀山に関する個別の追求テーマを設定し学習を展開したことにより、主体的に学ぼうとする意欲や課題を解決するために追求する力の高まりがみられた。

3 班

第 三 中 学 校
大 森 小 学 校
高 山 小 学 校

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生 7名

2. 実施時期 9月～11月

3. 学習のねらい

- ・「石見銀山」及び地域の「街道」や街道沿いの事物について学ぶことによって、地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りを持った生徒を育てる。
- ・「街道」や物流について学ぶことによって、国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」の価値を再認識し、広い視野を持った生徒を育てるとともに世界遺産の保全に対する意欲を高める。
- ・学習をとおして、地域にある貴重な世界遺産の保全や地域の発展に対する意欲を高め、まとめたことを発表し、生徒が肯定的な評価を得ることで、生徒の自尊感情を高める。

4. 学習の内容

①事前学習(1)

- ・小学校での既習事項の確認。
- ・目標、個別の課題の設定。

②事前学習(2)

- ・地域の「街道」について知る。(講師：石見銀山ガイドの会 渋谷様)

③フィールドワーク

- ・「やなしお道」を歩く。(講師：石見銀山ガイドの会 渋谷様)

④事後学習

- ・学習した内容から、自分が最も伝えたいことを簡単にまとめて発表する。(学級内)
- ・自分の課題やフィールドワークで得たことをまとめる。

⑤展示発表

- ・文化祭での学習成果を紙面で発表する。

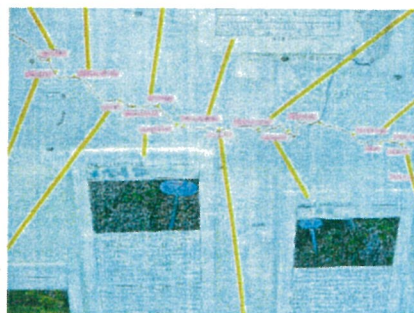
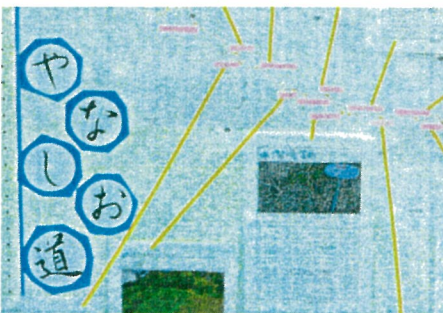
5. 実際の学習の様子



10月9日 「事前学習(2)」 講師：渋谷様



10月17日 「やなしお道フィールドワーク 小松地～粕淵」 ガイド：渋谷様



11月2日「文化祭展示発表」

○生徒の個別の学習テーマ

- ・やなしお道沿いにある水溜場のような場所の役割について
- ・銀を運びやすくするためのやなしお道沿いに施されていた工夫について
- ・版築工法のような昔の人の工夫
- ・やなしお街道にある峠について
- ・荷置石のようにやなしお道周辺にある特徴あるもの
- ・やなしお道のおすすめのビュースポット(景色が綺麗な所)

○生徒の感想 ～銀山学習を振り返り、感じたこと考えたこと～

- ・普通に歩いただけでもかなりきつかったけど、昔の人は重い銀を積んで運んでいたと思うとすごいと思った。昔の人のいろいろな工夫があちこちにあることが分かりました。
- ・いろいろな場所に遺跡があるだけでなく、イノシシがドロ浴びをした跡などもあり、自然を感じました。昔の人が通っていた証にいたるところに工夫がされていてとても面白かった。思っていたほど高い場所ではないので登りやすかったです。
- ・珍しい植物やみたことのないキノコがたくさん生えていた。「撮っても取らないで」という看板をみて自然を大切にしようと思う気持ちが伝わってきました。
- ・昔の人々の苦労をいろいろな場所で感じる事ができたので、現在の人々に伝えたいと思いました。
- ・やなしお道を歩くのは大変でしたが、途中に休憩所や景色の良い場所があってあまりつらくなり良かったです。
- ・昔の人の苦労がよくわかりました。今後もぜひ続けて欲しいと思いました。
- ・みんなと「やなしお道」街道を歩くのはとても楽しかったです。

6. 成果と課題

【成果】

小学校で「石見銀山遺跡」について深く学習をしているが、今回はこれまで取り上げられていない街道をテーマにしたことで、まだ知らないことがあることに生徒自身が気づき、「石見銀山遺跡」への関心を高めることができた。また、今回の学習によって改めて地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りをもった生徒を育てることができた。

「街道」や物流について学ぶことで、国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」の価値を再認識することができた。また、街道沿いの草が刈ってある様子や倒木を処理してある様子などを目にしたりすることによって、貴重な遺産を保全するために尽力しておられる方々の存在や思いに気づくことができた。このような学習によって広い視野をもった生徒を育てるとともにその価値を次代へ継承していこうとする意欲や地域にある貴重な世界遺産の保全に対する意欲を高めることができた。

生徒それぞれが個別の課題を設定して活動したことで、「石見銀山」の歴史や自然を学ぶことによって歴史や自然への関心を高めるだけでなく、課題解決力や表現力を高めることができた。

【課題】

今回の学習をとおして、遺跡の保全にかかる経費や必要な人材、どのように後世に伝承していくのかなど、石見銀山遺跡が抱える課題についても学ぶことができた。それらの課題を解決していくために自分たちにどのような活動ができるのかについて、生徒自身に考えさせたり、意見を出し合ったりする学習をすることも大変意義のある活動だと考える。しかし、カリキュラム上、総合的な学習の時間の中で取り組むことは困難なため、今後の銀山学習の進め方について検討していく必要がある。

令和元年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

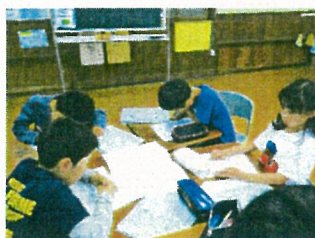
1. 実施学年・人数 3～6年生を中心に学習を進めながら、全校9名で実施
2. 実施時期 5月～11月
3. 学習のねらい
 - 石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育む。
 - 8年目となる子どもガイド活動について、今までの学習を踏まえ見通しを持った活動にすることで、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てることができる。
 - 発見・収集した情報を処理しまとめる活動をしたり、わかりやすく伝える活動をしたりすることを通して、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

4. 学習の実際の様子

大森小学校では、毎年石見銀山についての学習を全校の児童が行っており、資料を調べるだけでなく実際に現地に出かけて行き、専門の方にお話を聞きながら見学したり、体験したりする活動を大切に考えている。

(1)「銀山子どもガイドプロジェクトⅧ」(3～6年：5名)

- ・ 昨年の町並み地区に続いて、今年は銀山地区の『銀山カルタ』スポットや、自分たちのおすすめスポットについて、調べ学習を進めた。
- ・ ガイド学習を成功させるために、チームで話し合ったり、現地でリハーサルを行ったりした。
- ・ 石見銀山ガイドの会の協力を得て、銀山地区についての説明を受けたり、ガイドをする時のポイントを質問したりすることで、銀山地区の魅力を再発見することができた。



- ・ 銀山地区の史跡などについて調べたことをまとめ、クイズなども取り入れながら、高山小学校の3・4年生の友達に銀山地区について案内する子どもガイド活動を行った。ガイドの会の方々から学んだガイドのポイントを参考にしながら、自分たちの言葉で伝えていく活動とすることができた。

(2) 山吹山から仙の山登山（全校：9名）

- ・かつて銀がたくさん産出された仙の山。その向かいにある山吹山（要害山）に山城が建てられ、主導権を争って戦国武将が戦いを繰り広げた。山吹城跡地を訪れ、大森の町並みを見下ろしながら、石見銀山ガイドの会の方から当時のお話を聞いた。また、山吹山にまつわる言い伝えにも子ども達は興味を示した。
- ・山吹山を下り、続いて仙の山へ登った。仙の山では、山吹山との位置関係を知り、集落跡や間歩の見学も行った。山吹山と仙の山をセットで学習したことで、当時の人々の暮らしや銀山の歴史にさらに興味を持つことができた。



(3) 地域への情報発信（全校：9名）

- ・子ども達が学校で学んできたことを、大森っ子発表会で地域の方々に紹介した。その中に、銀山学習の様子も盛り込んで地域への情報発信を行った。
- ・合わせて、銀山学習でお世話になった方々を発表会に招待し、地域との交流も深めた。



5. 取組の成果と課題

- ・1年生から6年生までが、地域教材として石見銀山に関わることができ、より自分達の郷土を理解し、誇りと愛着をはぐくむことができた。
- ・3～6年生は、目的や目標を明確にしながら学習に取り組むことができた。また、「ガイドの会」というモデルが身近にあることも、学習意欲の継続に役立っていた。
- ・石見銀山がもつ魅力や大森地域の良さを再発見したり、意欲的・主体的に課題を解決したりする態度を育てることができた。
- ・自分が感じたことや学んだことをまとめ、人に伝えるという学習を通して、思考力・判断力・表現力を養うことができた。
- ・学習素材が多くある中で、どの内容を選択しどれだけの時間をかけて学習するのがよいのか、また、学習したことを効果的に発信するにはどのような方法がよいのか、協力していただける団体や人材と今後も繋がりを保ちながら探っていかなければならない。

令和元年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年、人数

第5・6学年 14名

○実施時期

令和元年11月～令和2年1月

○学習のねらい

- ・ 石見銀山についての郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、その歴史や価値について知ることと、ふるさとに愛情と誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

○学習内容

＜事前学習＞

- ・ パンフレットなどの資料から石見銀山の歴史や価値について理解し、課題を見つける。

＜現地学習＞

- ・ 石見銀山世界遺産センターを訪れ、説明を聞いたり見学したりして課題を解決する。
- ・ 石見銀山の開発に携わった人々の工夫や苦勞を感じられるようにするために、石見銀山世界遺産センターにおいて低融合金加工（灰吹法）の見学を行う。
- ・ 大久保間歩を見学し、本物に触れることで学習を深める。

＜事後学習＞

- ・ 資料による学習、見学、体験活動で学んだことをまとめ、発表する。

○実際の学習の様子

＜現地学習＞



＜事後学習＞

児童が作成した
発表内容の一部→



【児童感想】

○石見銀山世界遺産センターにて

- ・ 私は、石見銀山世界遺産センターに初めて行きました。とてもリアルな模型や本物の銀を見ることができて、感動しました。灰吹法では、加熱していくごとに鉛が溶けていって、最後にはピカピカの銀が残り、当時の人たちがどのように銀を取り出していたのかがわかりました。
- ・ 灰吹法を見学して、初めに石をくぐり水で洗うという手順で行うことがわかりました。今はガスバーナーで熱を送っていたけれど、当時はガスバーナーなどの便利な物を使わずに銀を取り出すのは、とても手間がかかってしまうから、大変だなと思いました。ガスバーナーでも時間がかかり、それでもほんの少量しか取り出せないこともわかりました。
- ・ 坑内から出てきた不要な岩石のことを「ズリ」ということがわかりました。かたいから、家を建てる時に使うのだなと思いました。
- ・ 銀を運ぶ道が2つあって、長いけれどゆるやかな温泉津の港の方へ道を変えたことがわかり、なるほどと思いました。実際に30kgの銀を持ってみただけれど、とても重かったです。当時の人の大変さがわかりました。

○大久保間歩、釜屋・岩盤遺構見学にて

- ・ 銀山には、昔2～5万人の人が生活をしていたことにおどろきました。実際に大久保間歩まで歩くと、銀を作ってたかえていた時のあとが、たくさん見られました。
- ・ 大久保間歩には、コウモリがたくさんいておどろきました。ガイドの福間さんが、一人一人の質問に丁寧に答えてくださって、とてもよくわかりました。福間さんのように、たくさん知識をたくわえて、私も他の人に伝えたいと思いました。
- ・ 鉱山で働く男性は、事故や病気で平均30才までしか生きられなくて、命をかけた仕事なのだなと思いました。でも、あんなに大きな穴をほって、すごいなと思いました。もっと銀山について知りたくなりました。
- ・ 昔は機械がなかったのに、いろいろと工夫しておられたのだと思いました。銀山学習を通して、石見銀山のすごいところをたくさん知ることができてうれしかったです。

○学習の成果と課題

- ・ 石見銀山の歴史や価値について理解を深めることができた。
- ・ 石見銀山の価値について知り、その素晴らしさを知ること、ふるさとを愛する心を育てることができた。
- ・ 身近な世界遺産について学習することで、世界遺産への興味・関心を高めることができた。
- ・ 石見銀山遺跡についての調べ学習を通して、調査活動の技能を高めることができた。
- ・ 課題設定、追究学習を通して、課題解決学習能力を向上させることができた。
- ・ 体験や学習したことをまとめ、発表することを通して、表現力を高めることができた。今回は画用紙を活用した発表形式にしたことで自分が発表したいことを焦点化させた。今後は、掲示することも考慮し、全校児童へ伝えられる活動にしていきたい。

4 班

北	三	瓶	中	学	校
志	学	中	学	校	校
志	学	小	学	校	校
北	三	瓶	小	学	校
池	田	小	学	校	校

○実施学年・人数 1年生5名

○実施日 平成31年4月23日(火)

・本校は2年周期で内容を変えて銀山学習に取り組んできている。

①銀山街道を歩く(銀山公園から沖泊港までの13~14kmを実際に自分の足で歩く体験活動)

②遺産センター、大久保間歩から石銀集落を徒歩で移動し途中の間歩等も含めて見学する活動
今年度は①の年である。

○学習のねらい

【ふるさとを知ろう】

- ・郷土の貴重な文化、歴史遺産について理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域、文化、技術について学習する。
- ・この地に生まれ育った一人として、地域に対しての誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

【石見銀山街道を歩こう】

- ・石見銀山の遺跡を見学し、先人たちの活動がどのような様子であったのか理解を深める。
- ・実際に現地を歩き、世界遺産全体のおおよその規模を把握するとともに、歴史に関する興味・関心を高める。
- ・互いに協力し合いながら活動をやり遂げる力を培う。

○実際の学習のようす

1) 事前学習

参加生徒5名のうち、1名は4月に他県から転校してきた生徒(山村留学生)であり、また、2名は小学校高学年から山村留学で転入した生徒である。石見銀山についての知識には、かなりばらつきがある。事前学習として社会科の授業で「知ろう!探ろう!石見銀山」の冊子・DVDなどを用い、石見銀山の歴史や文化的景観などについて、その概略を学習した。

2) 当日の動き

場 所	移動手段	時 間	内容など
学校~銀山公園代官所前広場	バス	8:30 ~ 9:10	バス移動
銀山公園	徒歩	9:20 ~ 9:40	見学・ガイドさんの説明を聞く
下河原吹屋跡		9:50 ~ 10:10	
豊栄神社		10:10 ~ 10:30	
長安寺跡		10:40 ~ 10:50	
降路坂		11:00 ~ 12:00	
西田集落(よずくの里)		12:00 ~ 12:40	昼食・休憩
瑞泉寺	バス	12:40 ~ 13:00	見学・ガイドさんの説明を聞く
中村の題目塔		13:10 ~ 13:30	
将棋岩		13:00 ~ 13:30	
清水金柄杓井戸		13:40 ~ 14:10	
温泉津沖泊港	バス	14:30 ~ 15:00	感想発表
沖泊港~学校		15:40	バス移動

3) 事後学習

現地を訪れ、説明を聞いて分かったこと、感想などを紙面にまとめたり、社会科の歴史学習の中で補っていったりした。



銀山公園でガイドさんの説明を聞く



下河原吹屋跡



降路坂を行く



沖泊港で語り合い

～実際に歩いてみて分かったこと、ガイドの方の説明を聞いて分かったこと、感想～

- ・街道を全て歩いたわけではないけれど、とても疲れました。もう一度、あの山を越えろといわれたら、正直行きたくありません。しかし、昔の人は銀を運んで歩いたのだから、自分たちより何倍も何十倍も大変だったのだろうと思いました。そうしないと沖泊につかないのだから、度胸があるなと思いました。

平坦な道だけでなく、アップダウンもありました。僕が思うには、アップダウンの方が多く、平坦な道はほとんどありませんでした。

ガイドさんが詳しく昔の説明をしてくださったので、とても勉強になりました。

- ・歩くのはとても大変だったけれど、間近にいろんなものが見られて、とても刺激になったと思いました。降路坂では、道なき道で途中道幅がせまかったけれど、頑張って歩きました。とてもいい体験が出来ました。

「番所は何のためにあるのか？」と聞かれて、何となくわかっていたように感じていたのに答えられませんでした。何となくで、見過ごしているものがたくさんあると感じました。

- ・初めての石見銀山学習でした。初めは銀山公園で説明を受けているときに「歩かないのかなあ？」と思っていたら、とても速いスピードでガイドさんが歩き出したので、まだ山道にさしかからないうちに疲れてしまいました。

山道に入ってから、経験したことのない大冒険が始まったという感じでした。すべてころんだり、こわい一本道を歩いたり、大変でしたが、目的の場所にたどり着けてよかったです。

- ・昔の人は大量の銀を持ちながら、あんなきつい道を何往復もして、忍耐力がすごいと思いました。僕は、最初の山を登ったところで足が上がりなくなりました。目標地点に着いたときの感動は忘れられません。

鼻ぐり岩が思った以上にいろんな形で、しかもたくさんあって驚きました。

- ・昔の人が、鉱石を掘ったり、銀を取り出したりしたところや、家や街の跡がたくさん残っていました。このようなものを作るのは、たくさん人手がかかったのだろうと思います。今では想像ができないくらい、たくさんの人が居たのだろうと思いますが、20万人というのは、多すぎると感じました。土橋をどうやって作ったのが、気になりました。ブルドーザーやショベルカーがないのにどうやって土を積んだのでしょうか。

○学習の成果と課題

銀山遺跡をたどり、軽い荷物ではあるが、自分のリュックを背負って険しい山道を歩いたことで、それよりはるかに重い銀や生活物資を担いで歩いた昔の人たちの苦労や偉大さを実感できた。

本校は山村留学制度により、毎年のように転入生がくるため、学習の積み上げが生かされにくい面もあるが、現地を歩きながらガイドさんの詳しい説明を聞くことで、忘れていたことを想起したり、新たな知識獲得やふるさとへの愛着を深めたりすることができた。

令和元年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 1年生 5名

2. 実施時期 令和元年6月～令和元年11月

3. 学習のねらい

- ・ 現地学習で学んだことを通して、石見銀山遺跡への理解と郷土への愛着を深める。
- ・ 石見銀山と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いを理解してその意義に気づき、ふるさと志学も大切にしていこうとする態度を育てる。

4. 学習内容

- 事前学習 ねらいや見学地について知る。疑問点などを挙げて課題を見つける。
- 現地学習 大森周辺のフィールドワークを通して、石見銀山遺跡への理解を深めるとともに、課題について考える。
- 事後学習 学んだことを整理し、学んだ視点でふるさと志学について気づいたことを挙げる。
- 文化祭展示 現地学習で分かったことや学んだことを新聞形式にまとめて、小学生、保護者、地域に向けて展示する。

5. 実際の学習の様子

○現地学習

(町並み交流センター)



(大森町内)



(熊谷家住宅)



(城上神社)



【生徒の感想】

- ・ 井戸平左衛門が大森の人たちのために、罪を犯してまで米などを取ってきたことを初めて知りました。熊谷家住宅はとても広く、当時は何人ぐらい住んでいたのか気になりました。
- ・ 今まで石見銀山は1回で世界遺産に登録されたと思っていましたが、登録が延期されていたことをガイドさんのお話で知りました。また、各家に要石があったことに驚きました。
- ・ 江戸時代の町並みを守るために電気のメーターや自動販売機を木で囲ったり、電線を地下に埋めたりしていて驚きました。住民の方々が町並みを守ろうと頑張っているんだと感じました。

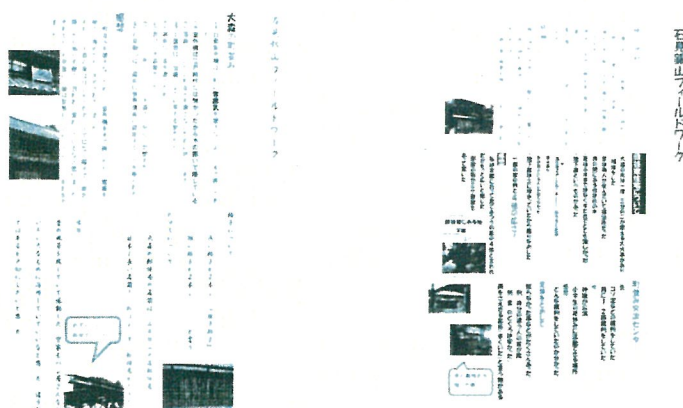
- ・大森では身分に関係なく家が並んでいて驚きました。また、世界遺産に登録される前から地域の方々が町を守っていかうとしていたと聞き、その努力のおかげで世界遺産に登録されたんだと思いました。
- ・自分が住んでいる町は空き家をそのままにしているけど、大森はパン屋などに利用していてすごいと思いました。自分の町も何か利用できないかなと思いました。

○「文化祭」展示

(新聞を作成し、「文化祭」で展示)



Wordで作成し、A3用紙に印刷したものを展示した。



6. 学習の成果と課題

大森の町並みの見学を通して、世界遺産の環境保全の意義や、それを支える地域の様子について学んだ。伝統的な町並みを守る大森のまちづくりに触れることで、石見銀山の歴史的・文化的価値を改めて感じるだけでなく、志学のまちづくりにも目を向け、地域に愛着を持ち、地域住民としてまちづくりにどう取り組むか、ということについても考えを深めることができた。

本校の総合的な学習の時間は、志学地域をテーマに実施している。生徒たちは、大森と比較することにより、自分たちの地域を見直したり、地域活性化のために意見を提案したりしている。また今回の学習を通して、情報をまとめたり、伝えたりする力を身につけることができた。

生徒が銀山学習で学んだことを生かして、石見銀山に対する理解を深めるとともに、ふるさと志学与銀山のつながりや、志学のまちづくりについてさらに考えが深められる機会になるようにしたい。

大田市4班連合小学校 志学・北三瓶・池田

令和元年度 大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年・人数 4班連合5・6年生20名
- 2 実施時期 令和元年9月18日(水)9:00~15:00
- 3 学習のねらい
 - (1) 石見銀山遺跡の現地見学等を通して、銀山の価値や近世の歴史について学ぶ。
 - (2) 3校の児童が共に活動や学習することを通し、集団行動や協力の大切さを学ぶとともに、親睦を深める。
- 4 学習内容
 - (1) 世界遺産センターの展示観覧
 - (2) 大久保間歩、釜屋間歩、石銀集落跡の見学
 - (3) 大森の町並み見学
 - (4) 新聞づくりによる学習のまとめ
 - (5) その他
- 5 実際の見学や学習の様子
 - (1) 4班連合修学旅行「世界遺産の原爆ドーム・厳島神社を訪ねよう」

6年生は、修学旅行で訪れた世界遺産(原爆ドームと厳島神社)の価値についてまとめ、修学旅行報告会で発表した。

5年生は、報告会の内容を聞き、広島にある2つの世界遺産について知るとともに、ふるさと大田にある世界遺産の石見銀山についての関心を高めた。



- (2) 石見銀山世界遺産センターで調べよう

各校や各自の課題についてセンターの見学を通して調べ、課題解決を図った。



(3) 石銀集落跡・釜屋間歩・大久保間歩を見学しよう

本谷から石銀集落跡・釜屋間歩・大久保間歩と歩き、当時の暮らしや作業について想像を膨らませた。

実際の間歩を見学し、そのスケールの大きさを実感するとともに、石見銀山ガイドの会の方の説明により発掘の工夫や苦勞を知った。



(4) 大森の町並みを見学しよう

石見銀山ガイドの会の方の説明により、当時の町のにぎわいや建物の特長、役割等を知った。



(5) 世界遺産「石見銀山」のすばらしさをまとめよう

学習したことを新聞にまとめ、一人一人が作成した「石見銀山新聞」を5・6年生合同学習で発表し合った。それぞれ意見交流や審査を行うなど、学習成果を交流した。

6 学習の成果と課題

- (1) 現地見学やフィールドワークにより、石見銀山の当時の暮らしについて学ぶことができた。
- (2) 新聞形式にまとめ、合同学習でお互いに発表し合ったことで、学習したことへの理解が増すとともに、石見銀山へのさらなる関心を高めることができた。
- (3) 三瓶周辺3校の児童の親睦と連帯感を深めることができた。
- (4) 昨年度温泉津地区を見学した6年生は、今年度大森地区を見学したことで世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習できた。5年生は、来年度温泉津地区へ行く予定であり、複式校のカリキュラムで学ぶ良さが実感できると期待する。

5 班

大 田 西 中 学 校
仁 摩 小 学 校
温 泉 津 小 学 校

令和元年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生42名

2. 実施時期 7月～1月

3. 学習のねらい

- ・「石見銀山」の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・地域の人々との交流を深めながら、世界遺産に登録された「石見銀山」について調べるとともに、これからの「石見銀山」のあり方について考えようとする態度を育てる。
- ・なぜ「石見銀山」が世界遺産になったのか、その魅力を再発見し、発信する態度を育てる。

4. 学習の内容および学習の様子

- ①ガイダンス（DVD『世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観』の視聴）
- ②テーマ決定（何を調べたいか）
- ③調べ学習（学校図書館を利用し情報カードにまとめる）
- ④現地学習（山吹城、大久保間歩、石見銀山世界遺産センター、石見銀山資料館、大森町並み交流センター、ゆうゆう館、灰吹法体験など）
- ⑤新聞作成（個人で学習のまとめ）
- ⑥文化祭での発表（学習した内容を劇仕立てで紹介）
- ⑦講演会（石見銀山生活文化研究所の松場登美さんと伊藤俊一さん）



山吹城跡での話



大久保間歩見学



文化祭での発表

【生徒の感想（現地学習より）】

総合的な学習で石見銀山学習をして、改めて石見銀山の歴史や大切さについて知ることができました。

これからも大田市の宝である石見銀山をいつまでも大切に守っていかなければならないと強く思いました。そして、石見銀山の魅力を発信していきたいです。



石見銀山は銀を通して、世界と交流していたということがわかりました。他の国との貿易の中で、日本に伝わったものがたくさんあると知って驚きました。大森町や温泉津町を見学して、石見銀山と世界のつながりを知ることができてよかったです。総合的な学習を通して石見銀山の魅力を改めて感じました。これからも大田市の誇りである石見銀山を大切にしていきたいです。

【生徒の感想（松場・伊藤さんの講演会より）】

私は今日話を聞いて、自分では気づかなかった身近な「当たり前」の素晴らしさに気づくことができました。不便で、田舎であり大田市のことが好きではなかったけれど、今日話を聞いて大田市も良いところがあるのがわかりました。松場さんが最後におっしゃった「仕事に合わせて人を変えるのではなく、その人に合わせて仕事を工夫する」という言葉が心に残っています。



5. 成果と課題

- ・自分たちが詳しく調べたいと考えた内容を仲間と協力して調査することで、意欲的に取り組めた生徒が多かった。
- ・実際に現地に行ったり、地域の方の話を聞いたりする中で、石見銀山の歴史や価値についての理解を深めるとともに将来の自分の生き方（進路）について考えることができた。
- ・調べ学習やレポート作りを通して、情報収集力や表現力を養うことができた。また、石見銀山についての幅広い情報を得ることができた。
- ・石見銀山についての学習を通して、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にしようとする態度を育てることができた。
- ・他県出身者からみた大田市の魅力を聞いて、外からの視点でふるさとの良さに気づくことができ、これからの町づくりについて考える機会を得られた。

令和元年度 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第4学年・第5学年・第6学年 85名

2. 実施時期 令和元年10月～令和元年12月

3. 学習のねらい

- ・ 仁摩を知り、仁摩に愛着を感じ、誇りに思う子どもを育てる。
- ・ 石見銀山遺跡や仁摩と銀山の関わりについての学習をとおして、地域の文化遺産について理解を深め、学習したことや感じたことを発信しようとする態度を育てる。

4. 学習内容

学年	4 年	5 年	6 年
単元名	井戸平左衛門について調べよう	石見銀山と私たちの仁摩	輝け！石見銀山
ねらい	仁摩町内にある史跡を地域講師と共に巡り、石見銀山や井戸平左衛門について学習することを通して、郷土の歴史への興味・関心を深める。	仁摩町と銀山の関わりについて興味をもち、大久保間歩の見学と鞆ヶ浦街道を実際に歩くことを通して郷土の貴重な歴史遺産や文化についての理解を深め、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守っていかうとする心情を育む。	5年時に行った大久保間歩見学や鞆ヶ浦街道を歩く現地学習をもとに、世界遺産センターでの学習を通して石見銀山の歴史や世界とのつながりについて調べ、世界遺産である石見銀山について自分達にできることを考える。
内容	・ 井戸平左衛門について図書や資料などで調べる。 ・ 石見銀山や井戸平左衛門についてや、仁摩地域との関わりについて地域講師の話を聞く。 ・ 石碑、寺院、城跡等の見学をする。(仁万・宅野・大國) ・ ワークシートにまとめる。	・ 石見銀山について調べてみたいことを見つけ、関心をもつ。 ・ 大久保間歩を見学する。 ・ 銀が運ばれた街道を歩く 大森～鞆ヶ浦港 ・ 仁摩と銀山との関わりについて考える。 ・ リーフレットを作成し、4年生に伝える。	・ 5年時に見学した大久保間歩や鞆ヶ浦街道を歩く学習を思い出し、石見銀山について、調べたいことを考える。 ・ 調べ学習をする。 ・ 世界遺産センターの見学 ・ 石見銀山の歴史や世界とのつながりについて考え、リーフレットにまとめる。

5. 実際の学習の様子

【第4～6学年の実践】

■世界遺産センターの見学・灰吹法の体験（6年） ■井戸公石碑見学（4年）



世界遺産センターを見学し、石見銀山の歴史や世界との関わりについて学んだ。

銀鉱石から銀になるまでの過程を、灰吹法の実演を見ることで学んだ。

地域にある井戸公の石碑等を見学し、功績を学んだ。

地域の城跡や寺院等を見学し、石見銀山が栄えていたころの仁摩地域の歴史について学んだ。

■鞆ヶ浦街道を歩く（大久保間歩～石銀地区～永久精錬所跡～鞆ヶ浦港）（5年）



大久保間歩を見学し、どのようにして銀が採掘されたかを知るとともに、その規模の大きさを感じた。

大森から鞆ヶ浦港までの街道をガイドをしていただきながら2日に分けて歩き、当時の人々の苦労や思いを実感した。

6. 学習の成果と課題

- ・現地学習や調べ学習を通して、石見銀山と仁摩との関わりを知ったり、地域に昔から大切にされている物やそれを支えてきた人々の思いに気づいたりすることができ、自分達の住んでいる仁摩に、さらに誇りと愛着をもつことができたと考える。
- ・6年生は、世界遺産センターの見学や灰吹法の実演を見ることにより、石見銀山の歴史や世界との関わりについて学ぶことができた。
- ・5年生は大久保間歩の見学とともに鞆ヶ浦街道を歩くことにより、銀山と仁摩との直接的な関わりについて学ぶことができた。
- ・4年生は、郷土の歴史に詳しい地域講師と校区内の史跡を巡ったことで、仁摩と石見銀山とのつながりや、井戸平左衛門の功績を知ることができた。
- ・各学年の学習内容と校内行事と照らし合わせ、系統的で、持続実施が可能な仁摩小学校銀山学習の計画を作成していきたい。

令和元年度石見銀山基金事業 世界遺産学習の概要

1 実施学年、人数 第6学年 13名、第5学年 12名、第4学年 13名

2 実施時期 令和元年9月～令和2年2月

3 学習のねらい

- ・温泉津町や大森町での現地学習を通して、石見銀山と温泉津町との関わりを学ぶ。
- ・温泉津町での見学や取材活動を通して、温泉津町についての理解を深め、ふるさとに対する愛着を育てる。

4 学習内容

	4 年	5 年	6 年
単 元	大森と井戸平左衛門	福光石について調べよう	石見銀山について調べよう
学 習 内 容	○課題設定 ・地域にある、井戸平左衛門の石碑を巡る。 ・井戸平左衛門について、資料を用いて人物像や業績などを知る。 ・課題設定をする。 ○現地学習 ・井戸平左衛門の行いやその時代の様子について知る。 ・大森町内の井戸平左衛門ゆかりの場所や竈館（芋釜）を見学する。 ○まとめ ・井戸平左衛門についてまとめて、発表する。 ・井戸平左衛門の生き方を視点に振り返りをする。	○課題設定 ・石見銀山資料館館長の話聞き福光石について知る。 ○現地学習 ・石切り場を見学し、どのように採石されているか学ぶ。 ・高野寺を見学し、福光石の用途を知る。 ○体験学習 ・福光石の加工を体験し、当時の人の気持ちを理解する。 ○課題設定・追究 ・見学をもとに課題を設定し、調べる。 ・ふるさとと自分とのかかわり方について考える。 ○まとめ ・学習のまとめをし、取組の振り返りを行う。	○課題設定 ・世界遺産になった理由について調べ、分からないことについてさらに追究したい課題を設定する。 ○課題追究・現地学習 世界遺産センター ・世界遺産センターで、石見銀山が世界に及ぼした影響について知る。 ・ゆり盆体験、灰吹き体験を通じて、銀のとり方や銀の精錬法について理解する。 大久保間歩、岩盤遺跡の見学 ・大久保間歩を見学し、銀の採掘がどのように行われてきたかを理解する。 ・時代により、採掘方法が変わってきたことなどを遺構から知る。 温泉津の町並み見学 ・銀により多くの人や物の行き来があり、町が繁栄したことを知る。また、銀が取れなくなった後も、海上交通の要所としての役割を果たし町が栄えていったことを知る。 ○まとめ ・学習したことをもとに、町の良さを生かした取り組みについて考えプレゼンテーションをする。 ・学習発表会で温泉津と銀山とのつながりについて紹介する。

5 実際の学習の様子



現地学習 石見銀山学習見学（4年）



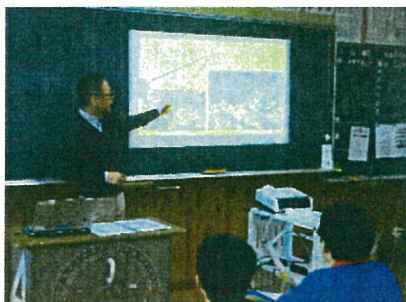
現地学習 石見銀山学習見学（4年）



現地学習 高野寺見学（5年）



現地学習 石切り場見学（5年）



事前学習 福光石についての学習（5年）



現地学習 温泉津町見学（6年）



現地学習 岩盤遺跡見学（6年）



現地学習 銀山街道見学（6年）



事後学習 学習発表会（6年）

6 学習の成果と課題

- 石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味を理解したり、地域を守っていきたくて考えたりする児童が増えた。
- 温泉津小学校学習発表会で、学習したことを多くの温泉津町民の方に見ていただくことができ、児童にとってよい機会となった。
- 銀山基金を活用することで、現地学習等の機会を多くすることができた。学習がダイナミックになり、児童にとって印象に残る学習となった。